



★2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて機運を高めていきましょう!

オリンピック・パラリンピックの2020年東京大会の開催決定から一年が経ちました。あの時の興奮が今でも思い出されるのは私だけではないと思います。さて、オリンピック・パラリンピックは一体誰のための大会なのでしょう。世界中のアスリートやスタッフ、国の威信をかけたもの、世界平和を願うものと、スケールの大きい話ばかりが頭に浮かびます。しかし、当事者だけでなく、まちづくりや商業・産業等、またお年寄りから子供まで、些細なことでも構わないから関わりたいと思っている全ての方の為の2020年であってほしいと私は願っております。杉並区には、基本構想という10年間の目標があります。では、まちや地域はどうでしょうか。毎年恒例のイベント等がありますが、なかなか長期的な展望を抱くことは難しい現実があります。だからこそ、滅多にない貴重な機会には、早くから積極的に取り組んでいくべきだと私は考えます。今から始めればまだ6年間ありますし、こうした密度の濃い時間を共有することが、何よりもまちづくりに繋がっていくのではないのでしょうか。地域でも少しずつ

2020年に向けた機運は高まっていますが、それでも何をしたら良いか分からない、誰に相談すれば良いのか分からないというのが現状です。まずは、仕組みをつくる必要があります。そこで、私たち会派としては、(仮称)2020年東京オリンピック・パラリンピックムーブメント委員会を設置し、民間を中心に、行政が側面的に支援してはどうか、と申し上げました。その中で、地域ごとに大きな企画を考え、実行してもらい、切磋琢磨しながら、それぞれが2020年に一斉に魅力をアピール出来れば、本当に素晴らしいことです。さて、先日まで朝の連続テレビ小説「花子とアン」が放映されていました。村岡花子先生が「赤毛のアン」を翻訳された一節に、「曲がり角を曲がった先に何があるのかは分からない。でも、きっと一番良いものにちがいないと思う」というものがありました。勇気を持って2020年に向けて一歩踏み出していけば、その先の杉並区はもっと素晴らしい自治体になると信じ、私も夢に向かって頑張っていきたいと思います!

(杉並区議会第3回定例会・決算特別委員会での質疑より)

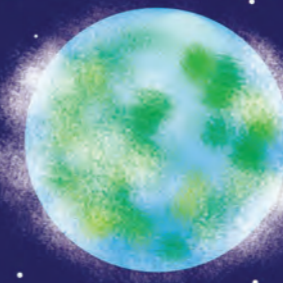
脇坂たつやプロフィール

- ☆杉並生まれ杉並育ちの自民党現職最年少32歳(家族揃って阿佐谷在住)
- ☆早稲田大学 政治経済学部 経済学科 卒業(杉並稲門会 会員)
- ☆民間企業に5年間勤務後、2010年7月、杉並区議会議員補欠員選挙にて初当選
- ☆2011年4月、杉並区議会議員選挙にて2度目の当選
- ☆杉並区議会 議会運営委員会 理事
- ☆杉並区議会 保健福祉委員会 副委員長
- ☆杉並区議会 議会改革特別委員会 委員
- ☆杉並区議会自由民主党 政調会長
- ☆自由民主党杉並総支部 事務局長
- ☆自衛隊募集相談員連絡協議会 中野・杉並支部 理事
- ☆杉並消防団 第6分団 班長
- ☆公益社団法人東京青年会議所 杉並区委員会 委員
- ☆2児の父として日々、子育てに奮闘中!



杉並区政レポート

惑星



杉並区議会議員
脇坂たつや

●事務所(自宅)
〒166-0004 杉並区阿佐谷南3-27-10
TEL. & FAX.3391-7717
●区議会控室
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
TEL.3312-2111(内線2307)

ブログ



発行日 2015.1 vol.11

今年もどうぞ宜しくお願い致します。

★平成25年度決算を認定しました!

杉並区議会では、9月・10月に行われた第3回定例会にて、平成25年度の決算審査が行われました。平成25年度は、基本構想に基づく総合計画の2年目として、実行計画を着実に進めていかなければならない年であり、「次世代に夢と希望を拓く予算」の御旗のもと、杉並区は「次世代に夢と希望を」・「まちづくりを通して地域経済、地域社会の活性化を」・「安全・安心に暮らせるまちを」の3点を重点的に推進してきました。また、待機児童解消を筆頭に、7次に及ぶ補正予算を組み、一方では、少子高齢社会の本格到来を見据えた区立施設再編整備計画を策定、受益者負担の公平性の確保の観点から公共施設の使用料適正化も行われました。歳入決算額は、一般会計が1694億

7355万円余、特別会計を含めると2709億1408万円余となりました。私たち会派・杉並区議会自由民主党としては、①厳しい財政状況にありながらも、人口減少社会を見据えた財政運営を行ったか②予算化・計画化された事業を着実に執行出来たか③時代の変化や多様化する社会の中で、喫緊の区民ニーズに対応出来たか④不断の行財政改革に取り組んだか、といった視点を持って審議にあたった結果、一般会計・国民健康保険事業会計・介護保険事業会計・後期高齢者医療事業会計の全てを認定し、最終的に杉並区議会としても認定となりました。以下、平成25年度の決算額と主な施策を掲載致します。

●平成25年度決算概要

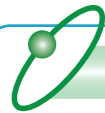
会計別	歳入決算額(円)	歳出決算額(円)	歳入歳出差引残額(円)
一般会計	169,473,550,814	162,124,099,317	7,349,451,497
国民健康保険事業会計	53,724,324,603	52,237,417,324	1,486,907,279
介護保険事業会計	35,519,361,727	34,329,405,312	1,189,956,415
後期高齢者医療事業会計	12,035,745,069	11,577,358,690	458,386,379
中小企業勤労者福祉事業会計	161,100,003	61,981,655	99,118,348
合計	270,914,082,216	260,330,262,298	10,583,819,918

- ・荻外荘公園の取得をはじめとした公園整備
- ・保護樹木等の維持管理や市民緑地の整備等、みどり施策の推進
- ・地域エネルギー対策の推進
- ・ゴミの減量と資源化の推進
- ・がん検診の実施
- ・救命救急体制の充実
- ・長寿応援ポイント事業等、高齢者施策の実施
- ・特別養護老人ホーム等、建設助成
- ・認知症高齢者グループホームの建設助成
- ・障害者グループホームの整備
- ・特定不妊治療費の一部助成等、安心して妊娠・出産出来る環境づくり
- ・すこやか赤ちゃん訪問等、母子に関する相談・講座の実施
- ・待機児童対策の推進
- ・障害児発達相談
- ・次世代育成基金の運営
- ・学童クラブの整備
- ・学校改築及び小中一貫校の施設整備
- ・大宮前体育館の移転改築
- ・地域住民及びNPO等の活動支援

<平成25年度の主な施策>

- ・耐震改修促進
- ・震災救援所周辺や木密地域での建物不燃化助成
- ・防災施設整備
- ・災害時要援護者支援
- ・防犯対策の推進
- ・狭隘道路拡幅整備
- ・まちづくり施策の総合的推進
- ・商店街装飾等のLED化助成等、地域特性に合った商店街事業への支援
- ・就労支援(若者・障害者)の拡充

等々



★「働く」を応援する杉並へ！

「働く」を応援する！これは私の議員としての大きなライフワークの一つです。少子高齢社会の本格到来を間近に控え、これからの日本は、社会の枠組みが大きく変わろうとしています。人口減少に対する危機意識を共有し、若者が希望通りに子供を生み育てることへの環境整備が今まさに求められています。こうした課題は国の政策に直結するものですが、区としても今後、様々動き出していかなければなりません。そこで、以下、3点について、「働く」をテーマにした私の政策を申し上げます。

①女性の社会進出を力強く後押しする！

女性の社会進出については、区も保育所整備を積極的に進める等、鋭意努めています。より一層前進させなければならない課題です。また、もう一步踏み込んで、仕事に生きがいや夢を持って頑張っている親御さんの気持ちを汲み取ることも大切です。例えば、管理職への登用を希望する女性は主に40代以降と想定されます。親の介護の為に離職する方もおられる中で、女性のライフステージに合わせて側面的に支援していく対策を講じてまいります。

②区内での起業や創業を応援する！

将来の働き方について、IT技術の発展が目覚ましい中で、育児中のみならず平常時においても在宅勤務が増えてくることは容易に予想出来るものです。そうした意味において、都心にアクセスし易い杉並区で「働きながら暮らす」というニーズは、潜在的には十分あるものと考えられます。今のうちから起業し易い環境を整えることによって、創業と言えば杉並区というイメージを広くアピールすることで、将来的には杉並区で育ち、成功した会社が多くの方を通勤・在宅問わず採用してもらい、地域と会社が共存しながら

新たな住宅都市を形成していく、その様な青写真を描いていくことが必要ではないかと考えております。また、超高齢社会を見据えた上で、如何に多くの若者世代に杉並区で暮らしてもらい、地域との融合を図っていくことも重要な点です。創業者を広報やインターネット等で取り上げることや、ビジネスチャンス拡大の一翼を担うこと、会社が軌道に乗った後は区内の中小企業の一つとして引き続き応援していくこと等、杉並で事業を続けてもらえる様、特色を出していくことが重要です。議会での、こうした私の指摘や、自民党・安倍内閣の政策の方針を受け、この度、杉並区は総合計画を改定し、産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画の認定を受け、年間50件の創業を目指していくこととなりました。これから新しく杉並区で産声を上げる企業が長く続いてくれます様、私もしっかりと応援してまいります。

③継続的な就労支援を実施する！

一昨年に開設した就労支援センターが、目標以上の成果を上げ、多くの方のご利用頂きながら、年間約600人の新たな雇用を生み出しています。開設前から就労支援の必要性を訴え、ずっと取り組んできた政策がようやく軌道に乗り、私自身も本当に嬉しく思っています。とは言え、今のところは例えば保育や介護に携わる方が増えている訳でもなく、なかなか需要と供給がマッチしていないことも事実です。

この点については、区も力を入れて、求職者もまた



採用する企業に対しても、独自の開拓を進めていくべきだと考えております。特に、その際の工夫として、現在就労支援センターの運営を委託している会社には、求人の開拓と仕事紹介もお願いしたく、区としては今後の検討課題として議論していくことを

約束して頂きました。「働く」ということは、生活の根幹に関わります。あらゆる視点を持って、安心して暮らしていける杉並区をつくってまいります。

(杉並区議会第2回定例会・一般質問、杉並区議会第3回定例会・決算特別委員会での質疑より)



★乳幼児の予防接種(ロタウイルスワクチン)に助成を！

大人が親や保護者になって、子育てを始める際に、戸惑うことの一つが予防接種だと思います。子供の予防接種には定期と任意、任意の中でも区からの助成金があるものとならないものに分かれています。その中の一つに、現在は助成の対象となっていないロタウイルスワクチンというものがあります。ほとんどの子供が5才までに感染すると言われ、子供は一週間下痢や嘔吐を繰り返します。保護者はその間ろくに仕事をすることも出来ません。共働きならば尚更です。仮に接種せずに感染した場合は、保護者の社会的・経済的損失及び肉体的・精神的な負担は相当なものになるのではないかと思います。何より子供が不憫でなりません。そこで、私はロタウイルスワクチンについて、以下の通りの様々な角度から質問をし、区独自の助成を始めるべきと求めました。①杉並区には定期接種でなくとも、議会や医師会からの要望を受けて必要だと判断すれば、任意予防接種に対して積極的に助成してきた歴史がある②ワクチン接種時の副反応に対するリスクが少ない③子育て

世帯への負担が大きい(約3万円)④保護者の所得によって生じる子供の健康格差は防がなければならない⑤ロタウイルスは5才までにほぼ全員が感染する⑥ワクチン投与額よりも保護者の社会的・経済的損失が増えてしまう⑦既に助成を実施している他自治体がある⑧杉並区は子供の医療費を無料化している⑨接種率によっては、助成の方が実費より財政負担が小さくなる可能性がある。私の質疑に対し、区長自らの口から、前向きに検討を進めていきたいとの重要な答弁を頂くことが出来ました。今後の動向をしっかりと見ていくとともに、私自身も親の一人として、これからも子育て世帯の声を届けていきたいと思っております。(杉並区議会第3回定例会・決算特別委員会での質疑より)



「惑星」のご感想・区政に関するご意見やご要望をお寄せ下さい。

ファックス: 3391-7717

メール: wakisaka@suginami-kugikai.jp 協坂たつや事務所宛